

## 2017年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 後期日程入学試験問題 法律科目試験 (民事訴訟法)

---

次の(設例)を読んで、問(1)から(3)に答えなさい。

(設例)

Xは、XのAに対して有する、すでに弁済期の到来している2,000万円の貸金債権を保全するため、Aに代位して、AのYに対して有する、すでに弁済期の到来している売掛代金債権2,000万円の支払いを求めて、Yに対し訴訟を提起した。Xの主張によると、Aにはこの債権以外めぼしい財産はない。

問(1)(配点:10点)

Xに当事者適格が認められる法的根拠について、説明しなさい。

問(2)(配点:20点)

審理の結果、AのYに対する売掛代金債権の成立が認められないため、裁判所は、Xの請求を棄却する判決をした。この判決が確定したのち、Aは、Yに対して、売掛代金債権2,000万円の支払いを求めて訴訟を提起した。裁判所は、どのような判決をすべきか、説明しなさい。

問(3)(配点:20点)

審理の途中、XのAに対する貸金債権の存在が明らかになる前に、AのYに対する売掛代金債権が弁済によって消滅したと認められた場合、裁判所は、Xの請求を棄却する判決をすることができるか、説明しなさい。